

食の変化と私たちの暮らし

茨城県公立中学校教諭

はじめに

本授業を構想するに当たって、次の2点に留意した。1点目は、「食」を生徒にとっての身近な教材として大切に扱うことである。「食」生活は、誰もが生きていくうえで欠かすことのできない活動である。そのため、生徒が教材を身近に感じ、興味・関心を高めて学習に取り組めるのではないかと考える。さらに、その形態、食事の内容等は環境による差が大きく、個食、偏食など社会的な問題になっていることも多い。「食」は、生徒個々の考えを導き出すのに適した教材といえるであろう。また、食料自給率や食の安全（産地の偽装、農薬、食品表示、食品添加物等の問題）など、さまざまな角度から学習を進めていくことが可能となる。個人の課題にもとづいた調べ学習や討論活動など、多様な学習活動を展開することができるであろう。

2点目は、本授業を、公民的分野を学んでいくのに必要な視点をもたせるための重要な「入り口」と位置づけることである。本授業は、公民的分野の学習がはじまって最初に学習する単元に含まれる。ここにおいて、社会的事象をとらえ、考えを深めていくよりどころとなるような視点もてることは、主体的に学習を進めていくうえで大切なことだと考える。そこでまず、時代の「流れ」や「変化」

に着目していくことが大切であることをおさえたい。「どのようにして現在のような状況になったのか」を理解することで、（公民的分野の学習対象となる）現代社会の諸事象についてより深く理解できるという視点を身につけることができるであろう。また、「多面的・多角的」に考えていくことが大切であることをおさえたい。異なる資料や立場から諸事象について考えることで、その認識が変わってくるという視点も身につけることができるだろう。

2 授業の計画

本授業を計画するに当たっては、前述した構想のポイントを次のように整理し、その順序を組み立てた。

- (1) 学習の内容について
 - ・「食生活の変化」による導入……………ア
 - ・「食に関する問題」の個人学習……………イ
 - ・「食の安全」についての討論……………ウ
- (2) 視点の獲得について
 - ・「時代の流れ・変化」の視点……………a
 - ・「多面的・多角的」な視点……………b

実際の授業では、ア→イ→ウの順に活動し、アにおいてaの視点を、ウにおいてbの視点を身につけることができるように配慮した。

3 授業の実際

○「食生活の変化」について考える。

導入部分では、「食」について調べていくための視点もてることをねらいとした。また、年表等の資料を活用することで、現代に見られる状況に至るまでの時代の「流れ」や「変化」にも目を向けて考えられるような視点を身につけさせたいと考えた。

「食生活の変化」について考えよう。

- ① 教科書p.4～5の年表〈第二次世界大戦後の歩み〉等から「食生活の変化」にかかわる項目を見つけ出し、発表する。

即席ラーメン、コーラ、ファーストフード、ファミリーレストラン、コンビニエンスストア、ディスカウントショップ、米の輸入

- ・ 上記のような項目が挙げられ、それぞれ「〇年も前に、□□はつくられていたんだ。」

等の感想が聞かれた。

- ② 自分の経験や予想から「食生活の変化」の背景について考える。

- ・ 工業技術が発達して、新しい食べ物が大量に生産できるようになった。
- ・ 仕事が忙しくなって、外食をする人や家族が増えてきた。

- ・ 上記のような意見が出された後、本実践を行った学級では、「米の緊急輸入」という言葉について『日本は食料自給率が低いので、輸入ができなくなると大変なことになる。』という意見が出され、「食に関する問題」について考えるきっかけとなった。

- ③ 具体的な資料の検討から「食に関する問題」について調べる視点について考える。

- ・ 教科書p.7の資料⑥〈自給率の変化〉を参考に、「食料自給率」という用語や日本の現状についておさえた。

- ・ 準備しておいた資料〈世界の人口の推移〉〈遺伝子組み換え作物についての記事〉等を活用して話し合いを行った。

資料 〈第二次世界大戦後の歩み〉

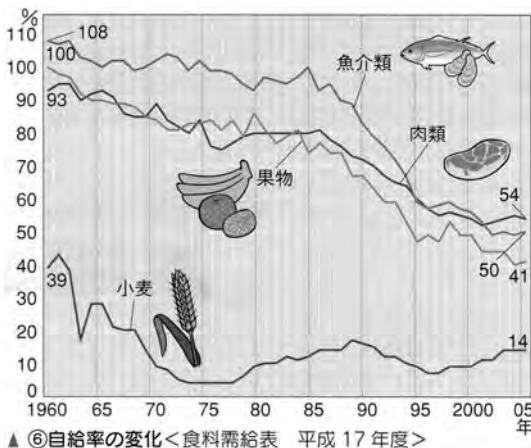
年	46	51	54	56	57	61	64	65	67	68	70	71	72	73	74	76	79	81	82	84	85	90	91	92	93	94	95	96	99	2000
政治・経済	日本国憲法公布	サンフランシスコ平和条約発効	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	
社会・文化など	日本国憲法公布	サンフランシスコ平和条約発効	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	ソ連、東欧の土壌を凍らせた上、高層ビル建設が本格化する	

「中学生の公民 初訂版」p.4～5

- ・世界の人口が急増しているのに、日本の食料自給率は低下している。いつか輸入ができなくなってしまうのではないか。
- ・収穫量を増やすために遺伝子組み換え作物が開発されたので、食料は確保できるかもしれない。
- ・遺伝子組み換え作物は、体にどんな影響があるかわからないので心配だ。

・上記のような意見をもとに、授業の終わりに次のような問題をまとめた。次時はこれを共通問題として、それぞれの課題に取り組んでいくことにした。

私たちの食生活は本当に安心なのだろうか。



「中学生の公民 初訂版」p.7

○「食に関する問題」の調べ学習を行う。

個人学習の場面では、『私たちの食生活は本当に安心なのか』という共通の問題意識を土台として、一人ひとりが「こだわり」をもって各課題を調べ「自分としての考察」がもてることをねらいとした。

「食に関する問題」について、関心のある課題を調べよう。

・ 家庭で話を聞いてくるなどの指示をしておいたため、調べる課題は以下のように多岐にわたった。また調べ学習の課題は、キャッチコピー風にまとめるようにした。

- ・ 食生活が原因？ メタボ&メタボ！
(食生活と生活習慣病について)
- ・ いつまで食べられるの？ 私たちの食事
(食料自給率と輸入について)
- ・ キレイで安い！ でも…
(農薬の使用と価格について)
- ・ 全部取ったらどうなるの？
(食品添加物の安全性)
- ・ つくっているところは見えないから…
表示はしっかり見ましょう！
(産地偽装と食品表示)

- ・ 調べ学習に当たっては、教科書p.21の「やってみよう」を参考にした。「仮説を立てる」ということにポイントをおくことで、問いを繰り返し、関心を維持しながら活動できた。
- ・ 自分に関心のある課題であること、仮説をしっかりともったうえでの活動であることなどから、「自分としての考察」もしっかりと書くことができた。

① 課題に関して仮説をたてよう



ごみ分別に疑問をもったわけだから、「分別しないと社会はたいへんなことになる」という仮説をたてたらどうかな？



課題に関して仮説をたて、それを検証するためにはどのような調査が必要なのか検討してみましょう。仮説は複数出し、そのうちどれがもっとも課題と関係しているかグループで話し合うとよいでしょう。



「中学生の公民 初訂版」p.21

○ 「食の安心」についてのシンポジウムを通して、自分の考えをまとめる。

終末部分では、新たに知り得た事実や友だちの考察から、「自分としての考察」を深めていくことをねらいとした。また、「安心」と「安全」の言葉について検討することで、「多面的・多角的」に考えられるような視点を身につけさせたいと考えた。

出されたことをきっかけにして、下記の問題について話し合い、自分の考えをまとめることにした。

「食の安心」＝「食の安全」なのだろうか。

- ・ それぞれの調べた事実をもとにして「＝」「≠」についての意見が出された。結論は出なかったが、生徒は「自分としての考察」をまとめることができた。

シンポジウムを通して「食の安心」について考えよう。

- ・ 数値や体験談などより具体的で理解しやすい資料を作成し、さらに、調べたことに対する自分の意見が明確に書かれている生徒を登壇させた。
- ・ BSE（牛海綿状脳症）牛肉の危険性について調べたA君が『その牛肉を食べた人が変異型ヤコブ病を発症する確率は、交通事故死する確率よりはるかに低い。また、その対処に何十億円もの費用をかけて検査しているのだから絶対に安全だ。』と発言したことに対して、多くの質問が出された。さらに、『安全だからといって、食べたいとは思わない。』『それだけのお金がかっているなら食べてもいい。』といった意見が

4 おわりに

本授業では、教材が生徒にとって身近であったこと、内容的に多様な追究が可能であったことなどから、個人学習、集団学習ともに充実した活動ができた。学年のはじまりの時期に有意義な授業実践を行うことができたと考える。

とくに終末の場面では、「安心」という情緒的な視点から展開していったため、比較的論理的な「安全」についての討論になった際にも、活発に意見を出し合うことができた。また、教科書の資料を効果的に活用することで、公民的分野における社会的事象をとらえる視点を身につけさせることができた。